

1. 幼稚園の目標	2. 本年度の重点目標
カトリックの愛と祈りの精神に基づき 神様を愛し人を愛することができる 子どもに育てる	・心を育てる ・宗教による情操教育 ・縦割り保育 ・小学校連携の充実のカリキュラム ・挨拶・礼儀・よい生活習慣の形成 ・環境衛生 ・モンテッソーリ教育 ・地域との交流

3. 目標・評価						外部関係者から
①こころを育てる（心の優しい子・ありがとうごめんなさいが言える子・注意集中する力があり落ち着きと忍耐力がある子）						
領域	評価項目	評価の観点	具体的な方策	達成度	成果と課題	意見や提言など
教育活動	生きる力の育ち	自分で考えて判断できているか	正しい目標を定めそれに向かって努力する心の強さを担う	3.8	年長児が年少児に声をかけ、手伝ったり寄り添ったりと縦割り保育ならではの助け合い、思いやりの心を育むことができた。年度の途中でクラス移行を行なったが、年上の子があたたかく迎え入れてくれ家庭的な雰囲気の中で安心して過ごすことができた。子どもが出来なくて困っている時、すぐにしてあげるのではなく、どうすればできるようになるのかを一緒に考えたり、お手本を見せて一緒にやってみたりと「自分でやりたい」「自分でできた」という気持ちを大切にかかわっていった。	園生活で遊び、出会い、学びを通して喜び、悲しみ、怒り、頑張るなど経験します。その時の関わりはその子の成長の大きな力となります。関わる者たちが課題を共有し協力し合い関わるのが大切です。モンテッソーリ教育や縦割り保育により子どもたちは家庭的な雰囲気の中で、日々、達成する喜び、思いやりの大切さを知るなどの貴重な経験を通じて健やかに成長していると思います。今後も自発的な探求心、寛容な心の育成を図ってみたいと思います。
	思いやりの心の育ち	相互のつながりをふやす	縦割り保育で家庭的な雰囲気をつくる	4.2		

②宗教による情操教育（神様にお祈り出来る子・明るくいいきした子・じっくり判断し行動できる子）						意見や提言など
領域	評価項目	評価の観点	具体的な方策	達成度	成果と課題	
教育活動	神様に愛されていることを知る	すべてのものに感謝する心を学ぶ	自己肯定感と善悪の判断をつけ正しいことを実行できる良心を形成する	3.8	宗教教育や日々のお祈りを通して神様がいつも近くで見守ってくださっていることを伝えていった。職員ひとりひとりが子どもたちの見本となって、神様の存在を意識しながら、思いやり、感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたい。	全園児が神様の存在を身近に感じることを通して、誰にでも思いやりを持って丁寧に接していると思います。先生方の愛情溢れる教育の中で子どもたちがそれぞれ大切な気付きを得て、成長の糧として日々生活していることは神様のお恵みの現れだと感じます。子どもも職員も「自分は神様に愛され守られている喜びを感じることは大切なことだと思います。

③モンテッソーリ教育（子ども一人一人をよく観察し今子どもたちが何を求めているか知り一人一人に合わせて提供する）						意見や提言など
領域	評価項目	評価の観点	具体的な方策	達成度	成果と課題	
教育活動	望ましい人格形成 を行っていく 体を動かしながら 体験を深める	こどもの動きの中に 意思を入れ人的環境 物的環境を通して こどもの発達を援助する	・お仕事の時間 ・縦割り活動 ・人との関りの中の体験活動 ・教具・研修	3.6	子どもたちが「もっとやってみたい」「知りたい」という思いにこたえられるよう子どもたちをよく観察して、発達段階や興味関心に合わせて環境の設定ができるように努力した。今年度は園内外の研修が少なかったため次年度は研修をさらに充実させ職員全体で共に学び合い、子どもたちのより良い人的環境となれるよう努めていきたい。	モンテッソーリ教育を通して、教具の中から自主的にやりたい仕事を見つけて最後までやり遂げる達成感を味わう場、求める教具が友だちと同じであれば互いに話し合い譲ったり譲られたりする場となりいい環境となっていると思います。子どもたちがさまざまな学びに意欲を持つような細かな工夫と努力をされていると思います。先生方のモンテッソーリ教育の研修の努力の賜物であり、引き続き物的環境と人的環境の充実を図って頂き、子どもたちが積極的にお仕事に取り組んでいくことを願います。

④小学校連携・地域との交流（園外活動・散歩・慰問・松原清掃・小学校見学など）						意見や提言など
領域	評価項目	評価の観点	具体的な方策	達成度	成果と課題	
教育活動	小学校や地域に 興味をもち つながりを深め親し みを持つ	活動の体験を 学びの自立へ 持っていけるよう 促す	生活習慣の徹底、 精神的自立、ができるよう 一人一人年齢に合わせた 関わり方で接する	3.4	年長児は、松原清掃、まつろ館での田植え・収穫・遠足などを通して唐津の自然にふれたり地域の方とも交流することができた。今年度は園内外の研修が少なかったため次年度は研修をさらに充実させ職員全体で共に学び合い、子どもたちのより良い人的環境となれるよう努めていきたい。	小学校見学などを通して、小学校で子どもたちがより心豊かに成長できるように土台を築いている。学校生活でのマナーやルールも、先生方から折に触れ子どもたちによく説明がなされており、保護者の不安が解消されるよう配慮がなされている。また地域との様々な交流にも心を砕かれており、子どもたちの社会性の更なる成長を感じます。

4 本年度のまとめ	達成度	外部関係者より総評
今年度も、縦割り保育の中で子どもたち同士の豊かな成長が見られ嬉しく思う。職員全体で子どもたちの様子を見守り、発達段階に合わせて適切な援助となるように心がけた。2歳、3歳児の年度途中の移行では、クラス担任やまわりの友だちが代わったことで、子どもたちが不安にならないように前担任との連携をしっかりと行い、信頼関係を築くことに努めた。移行後の生活で無理のないよう配慮しながら、お仕事にじっくり取り組んだり、友だちと一緒に行事に楽しく参加することができた。また全体的に待つ時間、話を聞く時間に騒がしくなることが多かったため、生活の中でメリハリをつけて過ごせるように職員ひとりひとりがかわり方を工夫して落ち着いて過ごせるよう努力していきたい。	A(5) ほぼできた B(4) 概ねできた C(3) 少しかけた D(2) 不十分だった	先生方の多大なる努力により、重点目標を確実に達成されており、子どもにも保護者にも地域にも信頼され愛される幼稚園であると思います。先生方の日々の努力の成果が、子どもたちの行動、そして笑顔となって表れるのを拝見し、子どもたちの可能性を信じ、愛深く教育されていると感じられます。縦割りや横割りそれぞれの特性を活かしながら教育されていることが、子どもたちの社会性を養う大きな原動力となっていると考えられます。いつも子どもたちのことを第一に考え、新たな取り組みも積極的に取り入れられることに感謝申し上げます。これからも、子どもたちの個性豊かな素晴らしい才能を開花させる教育を実践していただきたいと思います。